嬉望

第 12 号
平成25年11月27日
兵庫教育大学
教職大学院
学校経営コース
大学院生編集部

「嬉望」は、本学加東キャンパスが嬉野台地区にあることと、「希望」とをかけた造語です。

大学マスコット

多彩なゲストティーチャーの講義で学びを深める

カリキュラムの開発と学校の特色づくり
10月31日・11月7日(木)

10月31日、本学に東京学芸大学 末松裕基先生をお招きしました。末松先生は教育経営学のご専門で、特に、イギリスの学校制度における『スクールミドル』の役割から見る学校経営や教育課程経営について研究を進めていらっしゃいます。

当日は「教育課程経営がいま、なぜ必要なのか?」というテーマで、ミドルリーダーの重要性に関してお話をいただきました。経営とは、「他人を通して、事を成す」という側面があり、専門的な他者をいかに上手に登用するかにかかっていること、近年では「教育の組織化をめぐる意思決定の責任を学校が引き取る」という意味において、「自営型学校」への移行が見られることなど、教育課程も経営の観点からとらえることの重要性を学びました。

＊　＊　＊　＊　＊

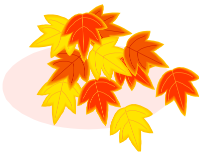
11月7日は、奈良女子大学附属中等教育学校 吉田信也副校長先生から、同校で行われているカリキュラム開発についてお話を聞きました。

奈良女子大学附属中等教育学校は、創立以来約100年の歴史をもつ国立大学附属学校として、30年以上の中高一貫教育の経験があります。現在の姿に至るまでには紆余曲折があり、カリキュラム開発が学校改善には必須だったようです。

同校では1989年度からの24年間、研究開発学校として三次に渡るカリキュラム開発、二次に渡るSSH研究開発を進めてこられました。基本的に中高六年間を一体としてとらえた上で、二年ずつに分節化したカリキュラム編成。これは中高を3+3でとらえると、中高一貫教育本来の目的が達成されないとの考えからです。

もっとも特徴的なのは、昨年度から五年生に開講した必履修学校設定科目「コロキウム」です。リベラルアーツ(教養)としての『観』を育成し、大学への接続も図っておられます。

「カリキュラムの裏にある『仕掛け』をつかむことが重要」、との示唆を安藤先生からいただきました。



☆　☆　☆　☆　☆

教育行財政の制度と運用
11月10日(日)
神戸HBLキャンパス

「都道府県の行財政リーダーの知見に学ぶ」という目的で、11月10日、神戸ハーバーランドキャンパスで、北海道教育委員会学校教育局 武藤久慶次長からお話をうかがいました。タイトルは、『基礎学力保障論～原理的論争に向き合っている北海道の経験から～』。武藤次長は、文部科学省初等中等教育局教育課程企画室、大臣官房総務法令審議室などを経られ、2010年から北海道教育委員会に勤務。教育政策課長、義務教育課長を務められた後、現職にて御活躍中です。

全国学力テストの結果を受け、道では平成26年度の全国調査までに学力を『全国平均以上』にすることを目標として掲げ、諸施策を展開中です。

お話の中で、「分からないまま一時間黙って座っている子が、『自分はどうせダメな人間なんだ』と思うことこそ、最も懸念されることだ」と次長。学力と家庭状況や離職率等の相関をデータで示され、学力保障の重要性を力説されました。

政策形成に関しては、「認識されていない課題を課題として認識されるように可視化すること」「分析に基づいて目標を全体に示し、改革の退路を断つこと」を具体的な取組として挙げられました。さらに、市町の自律性担保に関わる県と市町の関係性については、「一定の成果が出るまでは、期間限定でトップダウンの手法を採用している」とのことでした。

担当の日渡先生からは、「自治体行財政のトップによる意思決定は『施策』という形に結実する。言葉で知るだけではなく、学びを具体に落とすことが大事」とのアドバイス。

今後はさらに、国や市の行財政リーダーからもお話を聞く予定となっています。

フィールドワーク情報

研究開発学校視察　10月21日（月）

【兵庫県立上郡高校「社会人基礎ⅠⅡ」公開授業及び研究協議会】

一年生10名が参加し、高校における研究開発の状況を視察しました。兵庫県立上郡高校は、平成23年度から三カ年、文部科学省研究開発校「社会人基礎力育成カリキュラム開発事業」の指定を受け、生徒に自立と共生の能力を兼ね備えた社会人としての基礎力を培うことを目標に、実践研究を進めています。特徴は、道徳教育・キャリア教育・その他今日的課題に関する学習と就業体験等の体験活動を履修の要件とする教科「公共」を、教育課程上に位置付けている点です。

（授業風景から）

また、同校は舞子高校・猪名川高校・加古川北高校とも協同で研究を進めています。

当日は、二年生全学級で本学冨永良喜 教授と大学院人間発達教育専攻の学生が「ストレスマネジメント」を題材に、社会人基礎Ⅱの授業を行いました。

事後の研究協議会では、「生徒が確実に変わってきた。地域からも好評価を得ている。」という具体的な成果が挙げられました。生徒の実態に即し、先生方の得意手を生かした実践が効果を上げています。

京都府立東稜高校ＯＪＴ研修　11月6日（水）

一年生11名、二年生7名が参加しました。東稜高校は、今年度「特色ある教育活動の実践を通して『企画運営の方法と組織の動かし方』～若手教員の人材育成に向けた取組を通して～」の研究を実施している「教師力向上」教育実践力継承事業人材育成方法開発実践校です。

すでに一回目の研修として、夏に全職員で「人材育成方策検討表」作成を行っており、二回目の今回はそれを受けて、若手約10人が「ＯＪＴ企画書作成演習」を行いました。

参観した院生からは、「何とかアイデアを形にし、公式なルートにのせて、実現にまでもって行く一連の過程が、若手には大きな経験として残る。結局、これが最大のＯＪＴとして評価できる点かもしれない。」との感想が聞かれました。ＯＪＴによる若手の効果的な育成は、どの学校においても重要な課題であると言えそうです。

平成25年度 大阪府教育センター 事業企画検討委員会　11月6日（水）

二年生2名、一年生9名が参加しました。次年度の研修企画立案に向け、今年度の成果・課題が審議されました。

本年度実施事業の成果は、次のように集約されそうです。
○学校の「本丸」として、授業に迫るというテーマ設定がよい。特に、パッケージ研修が効果的。全国研修センターのトップランナー的存在。○提供できる多くの素材を持つのが強み。

会の終末で、次のような提言が委員の方からなされました。
●スピード感や信頼性のあるセンターへ。●一方的な伝達に終わらず、相互のキャッチボールを。●支援の方向性として、「センターしかない」という専門性の高い、質のある支援を。

教員の資質向上に向け、大阪府教育センターに対する期待感の高まりを感じました。

☆　☆　☆　☆

教員養成に関わる教職大学院構想

【平成25年度 山口県教員養成等検討協議会シンポジウム「教員養成の岐路～複雑化・多様化する教育課題に的確に対応する教員の養成・育成に向けて～」11月13日（水）山口大学】

一年生4名、二年生4名が参加しました。この会は、山口県の実情を生かした教員の養成や育成の方向性を展望することを目的として開かれました。

萩市教育委員会 中村哲夫 教育長のあいさつに続き、山口県教育委員会 竹本芳朗 教育次長から山口県における教員養成・採用、育成の現状・施策について説明がありました。

続いて、「大学に求められるこれからの教員養成の在り方」と題し、文部科学省初等中等教育局教職員課 藤岡謙一 課長補佐・同高等教育局大学振興課 栢森麻代 教職大学院係長の基調講演。教員養成・採用の抜本改革が必要であること、教職大学院が重要な鍵を握ること、などが提言されました。

パネルディスカッション前段では、「これからの教員養成・育成に求められるもの」をテーマに、県内小中学校長・教育長が、課題と解決の方向性を協議。後段は「これからの教員養成大学に求められるもの」と題して、本学の日渡円 教授、本学修了生である平原俊一先生(現 岩国市教育委員会)・升本雅巳先生（現 下関市立文洋中学校長）が本学での学びの意義について思いを語られました。

本学の果たす役割は、今後ますます大きくなりそうです。